

大崎小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「培った見方・考え方をはたらかせ、問題をよりよく解決しようとする子どもの育成 ～捉え、考え、生かす 大崎 ESD の実践を通して～」をテーマに、総合的な学習の時間や生活科を中心に、各教科の時間を使って、ESD 活動を進めている。
- ・『㊦笑顔あふれる㊧世界のために㊨できることからはじめよう』を合言葉に、「自分たちにできること」を追究していくことで、持続可能な社会の担い手の育成を図る。
- ・地域とのつながりを取り入れたカリキュラムを設定し、社会のさまざまな問題について、各教科等で培った見方・考え方をはたらかせながら解決していくことを通して、自分の可能性を最大限に生かしながら社会に貢献するための基礎づくりを行う。

・活動の実際

① 1年生

いきものとなかよし

むかしのあそびをやっちゃおう！

小学生が最初に関りをもつ社会は、地域の人、もの、ことである。

1年生の子どもたちは、生活科で身近な場所にいる生き物や昔の遊びに興味をもった。そこで、地域の老人クラブのかたたちと交流を行った。

「いきものとなかよし」では、老人クラブのかたに虫がいる場所や、採り方を教えていただいた。「昔あそびの会」では、お手玉やけん玉、こま、だるま落としなどの遊びを教えていただいた。老人クラブのかたがとても丁寧に優しく教えてくださり、子どもたちは夢中になって活動することができた。また、今年度は教えていただいた遊びを練習し、披露する場として昔遊びの会の2回目を実施した。2回目は保護者にも参加をお願いし、三世代で交流をすることができた。



② 3年生

みらいかがやく大崎キャベツ

これまで毎年3年生が大崎の名物のキャベツを育てていることを見てきた子どもたちは、自分たちも今年もっと大きくておいしいキャベツを育てたいという思いをもっていた。2学期にキャベツ栽培を始めることになった。農家のかたもキャベツは苗から定植していることを知り、今年は苗を植えていった。

次に子どもたちは、「虫がついたり、病気になったりしたらどうしたらよいか」、「水をあげるタイミングや量はどのくらいか」という疑問をもち、一人調べをした後に、農業ボランティアさんにインタビューを行った。農家さんの工夫や苦勞、喜びなどを知った子どもたちは、話し合いの結果、自分たちの力でキャベツを育てていくことに決めた。毎日、欠かさず土の乾き具合や虫に食べられていないかを見ながら、教えていただいた方法で大切に育てた。

1月、愛情をいっぱい受け、大きく育ったおいしいキャベツを収穫できた。

